

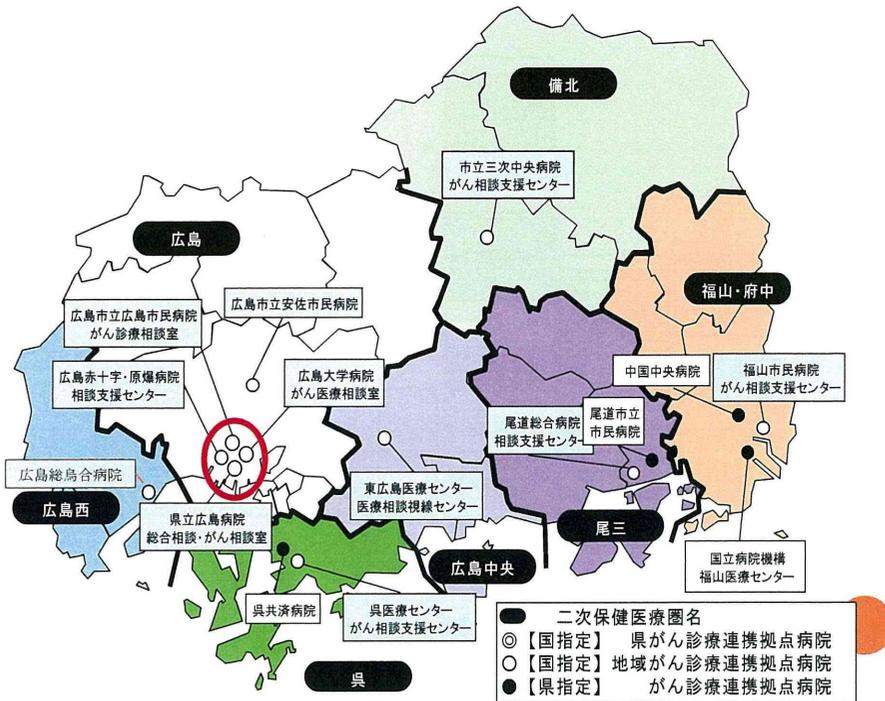
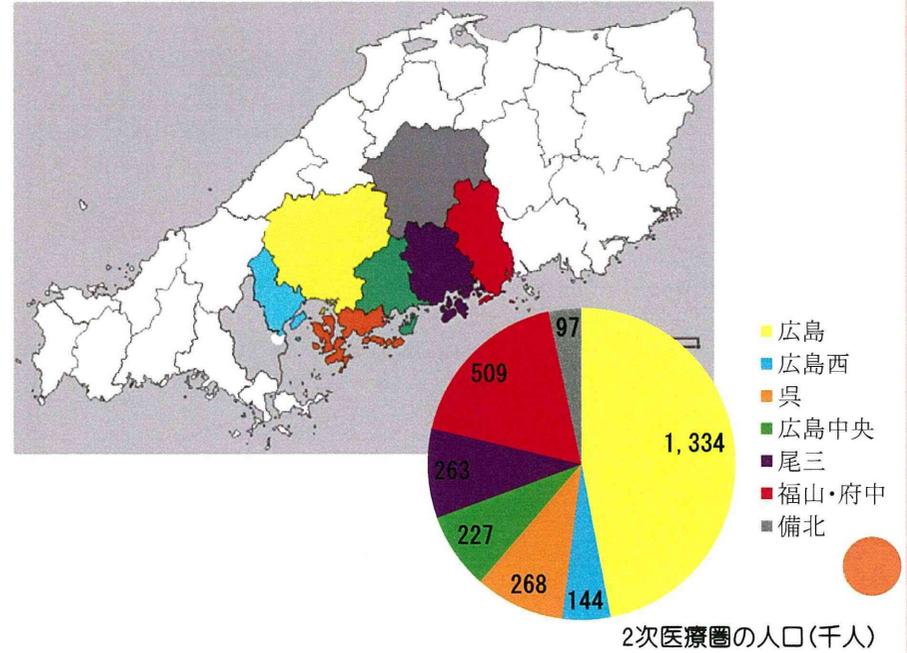
がん患者さんのための 「地域の療養情報」サポートブック作成の取り組み

～がん臨床研究事業(がん臨床地域必携班)研究分担者の立場から～

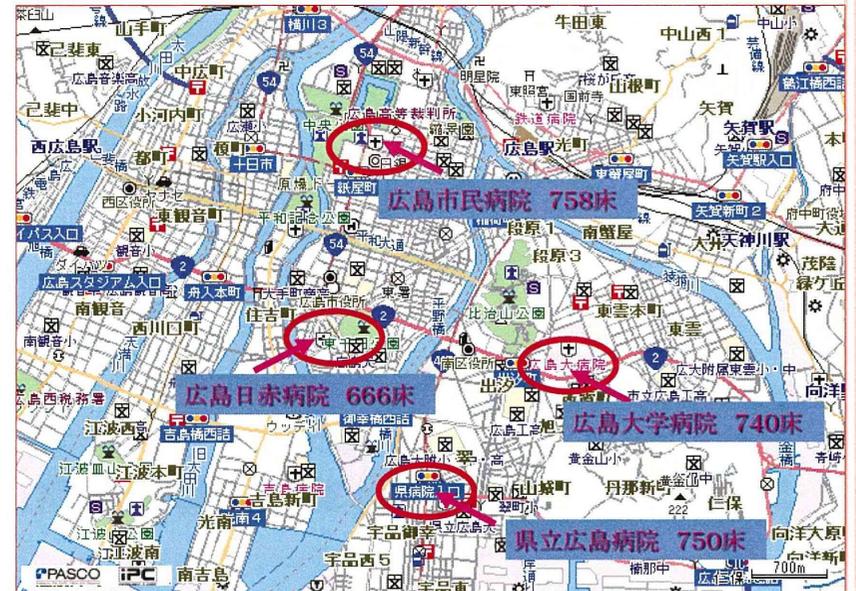


県立広島病院 臨床腫瘍科
篠崎 勝則

広島県284.2万人の2次医療圏と分布



広島県ならびに広島・地域がん診療連携拠点病院 (広島医療圏・広島中心部)

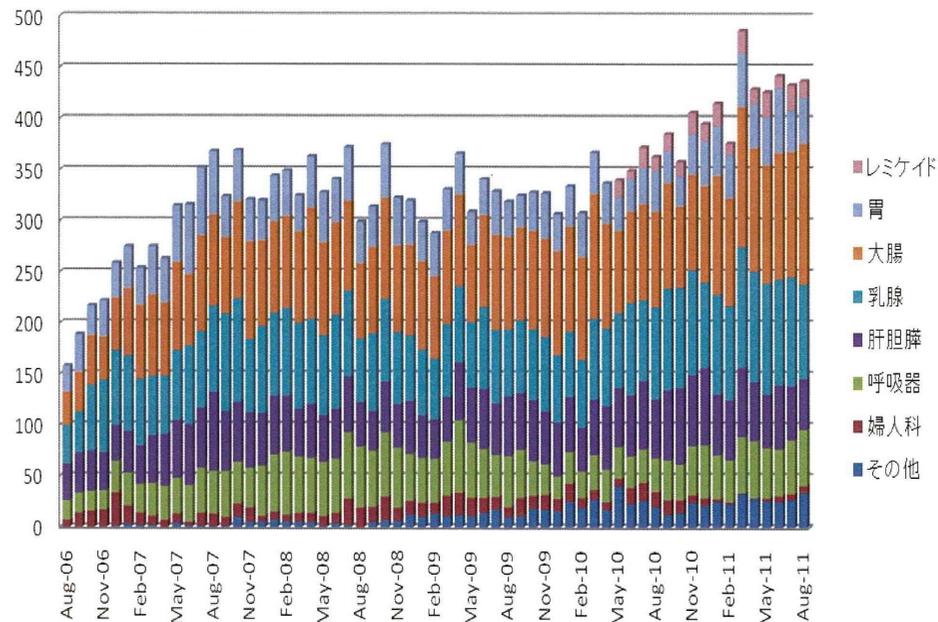


臨床腫瘍科開設式 平成18(2006)年7月20日

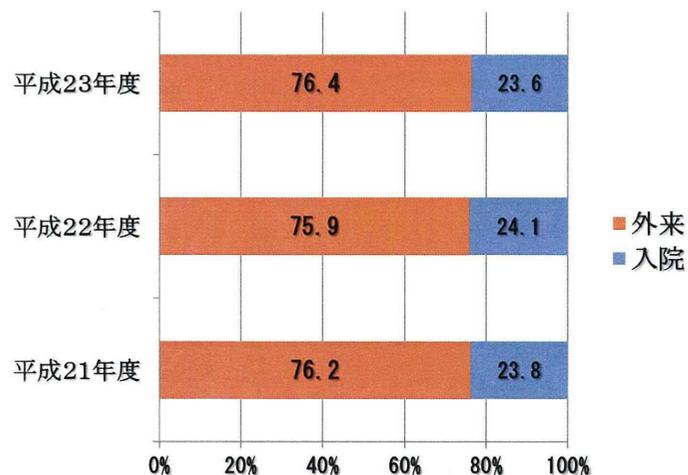


読売新聞2006年7月21日版

外来化学療法実施件数(月別)



当院での化学療法の実施状況



外来での化学療法が75%以上を占めている。

腫瘍内科医の果たす役割



在宅での療養の質の維持向上のためには、十分なケアを提供しながら化学療法や放射線療法を実施できる体制作りが重要。

がん薬物療法専門医

がん薬物療法専門医

病院の実力「がん薬物療法専門医」
専門医別2010年治療実績（統計年最新調べ）

専門医氏名	所属医療機関	病種とする分野	胃癌	肺癌	消化器がん	乳がん	婦人科がん	泌尿器がん	皮膚科がん	その他	合計
橋崎勝則	県立広島	胃癌、肺癌、消化器がん、乳がん、婦人科がん、泌尿器がん、皮膚科がん、その他	331	14							345
本井美帆子	県立広島	胃癌、肺癌、消化器がん、乳がん、婦人科がん、泌尿器がん、皮膚科がん、その他	239	10							249
北口聡一	広島市立安芸市立	胃癌、肺癌、消化器がん、乳がん、婦人科がん、泌尿器がん、皮膚科がん、その他	250	10							260
津藤久之	福山市民	胃癌、肺癌、消化器がん、乳がん、婦人科がん、泌尿器がん、皮膚科がん、その他	30	9							39
坂川芳彦	尾道市立	胃癌、肺癌、消化器がん、乳がん、婦人科がん、泌尿器がん、皮膚科がん、その他	30-40	0							30-40
西田文和	岡山大	胃癌、肺癌、消化器がん、乳がん、婦人科がん、泌尿器がん、皮膚科がん、その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廣水充孝	川崎院大	呼吸器（肺がん）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
吉田弘樹	香取中央	肺	100	0							100
山久山龍一	国・新館	呼吸器（肺がん）	98	5							103

人材育成が急務

「がん薬物療法専門医」は、がん治療の専門家として、がん患者の命を救うために、日々研鑽を怠らぬ。最新の薬物療法や治療法を学ぶため、海外研修や国内研修に参加し、最新の知識や技術を身につけている。また、がん患者の生活の質を向上させるため、緩和ケアや在宅療養に関する研修も積極的に行っている。

病院の実力

107

「がん薬物療法専門医」副作用にも精通

がん薬物療法専門医は、がんの治療や予防に欠かせない。副作用の管理も重要な役割を担っている。最新の薬物療法や治療法を学ぶため、海外研修や国内研修に参加し、最新の知識や技術を身につけている。また、がん患者の生活の質を向上させるため、緩和ケアや在宅療養に関する研修も積極的に行っている。

患者の希望くみ慎重判断

がん薬物療法専門医は、患者の希望をくみながら、慎重に治療法を選択している。最新の薬物療法や治療法を学ぶため、海外研修や国内研修に参加し、最新の知識や技術を身につけている。また、がん患者の生活の質を向上させるため、緩和ケアや在宅療養に関する研修も積極的に行っている。

新薬続々、組み合わせ多様化

がん薬物療法専門医は、最新の薬物療法や治療法を積極的に取り入れている。最新の薬物療法や治療法を学ぶため、海外研修や国内研修に参加し、最新の知識や技術を身につけている。また、がん患者の生活の質を向上させるため、緩和ケアや在宅療養に関する研修も積極的に行っている。



読売新聞 2011年9月4日 地域版(広島編)より抜粋

広島県のがん診療(化学療法)に携わる医師として

- がん対策情報センター・がん情報サービスにある、がん対策情報センターが平成21年6月に試作版として制作した「地域の療養情報」の中にどうして広島県版がないの？
- 在宅療養を組織する核となるのはどこなのか？
 - 医師会？
 - 後方支援病院としてのがん診療連携拠点病院？

県立広島病院・臨床腫瘍科の医師として

- 広島県もがん対策やそれに係る医療情報に関して、もう少し県民に良質な情報を広報すべきではないか？
- がん診療連携拠点病院にある相談支援センターで提供される医療情報を一元化することは、「がん医療の均てん化」に必要ではないか？

実は、私自身が広島がんネットのことを全く知らなかった。

健康

5 情報提供・相談支援

- ① がんに関する情報提供
- ② 患者・家族等の相談支援体制の整備

(1) 計画の進捗状況

項目	計画策定時	現状	目標(H24)
「相談支援センター」への県立がんセンターの相談員研修の受講者の配置	-	配置済	すべての相談支援センターに配置
統一的な公開基準に基づく拠点病院の診療成績(5年生存率)の公表	-	基幹病院に向けた拠点病院の診療成績(5年生存率)の公表	拠点病院の診療成績(5年生存率)の公表
患者団体等が主体的に関わる相談窓口の設置など、がん経験者の相談事業への参画の推進	-	がん経験者等による電話相談事業の開設(H23.11)等	がん経験者の相談事業への参画推進

※「計画策定時」、「現状」欄の○内の数字は、数値を策定した年度を表す。
※「現状」欄の数値のうち、下線を引いたものは目標を達成したことを表す。

主な取組状況

- 「広島がんネット」の開設 (H21.4)
- 県は、がんに関する情報を総合的、体系的に提供する「がん情報サポートサイト「広島がんネット」」を開設しました。

アクセス数	主な掲載内容
H21年度実績	・がんに関して知りたい知識 ・がん対策への取り組み ・県内で活動するがん患者団体等の情報 ・最新のがん関連イベント等の情報 ・がん診療連携拠点病院の診療情報 等
4月	3,330件
5月	1,859件
6月	2,153件
7月	2,138件



※「広島がんネット」で検索してください
http://www.pref.hiroshima.lg.jp/gan/net/index.html

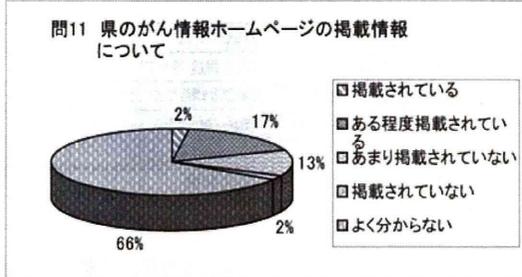
広島県がん対策推進計画



1 アンケート調査の概要

- (1) 調査目的
「広島県がん対策推進計画」に基づく県のがん対策の各種取組や、その成果に関するがん患者・家族等の意向実態を把握する。
- (2) 調査期間
平成21年8月10日(月)～平成21年9月11日(金)
- (3) 調査対象者
県のがん情報サポートサイト「広島がんネット」に掲載するがん患者団体15団体、及び広島県がん対策推進協議会委員が所属するがん患者団体(1団体)の計16団体
- (4) 調査方法
県内16団体の代表者宛にアンケート調査票及び回答票を郵送する方式で実施
- (5) 結果の概要
回答総数 274件

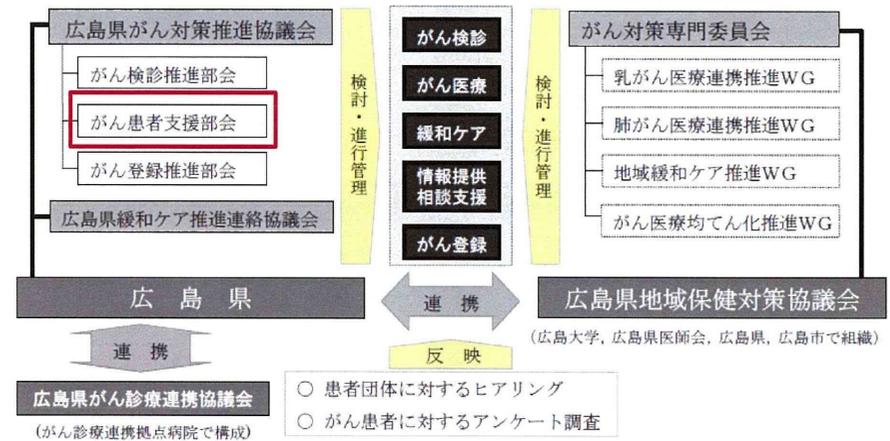
(問11) 県では、平成21年4月にがん情報サポートサイト「広島がんネット」を開設 (<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/gan-net/>) し、県内のがんに関するイベント情報や拠点病院の診療情報等をホームページで公表していますが、がん患者・家族の方が必要とする情報が概ね掲載されていると思いますか？



掲載されている	6
ある程度掲載されている	46
あまり掲載されていない	34
掲載されていない	6
よく分からない	178
回答総数	270

「よく分からない」という回答が全体の6割以上となっており、「掲載されている」、あるいは「ある程度掲載されている」との回答は、全体の2割(19%)にとどまりました。「よく分からない」理由としては、「ホームページが使える環境にない」、「高齢者には難しい」、「新聞等で知る位で、よく広報されてない」といった意見が多数を占めました。「広島がんネット」は、幅広いがん情報を入手するための手段として、今後も掲載情報の充実や、より一層の広報が求められています。

《「広島県がん対策推進計画」アクションプランの検討・進捗管理体制(平成21年10月現在)》



当院での薬薬連携に向けた取り組み

2010年10月に保険薬局を対象にアンケートを行い、保険薬局における現状と問題点について調査実施。

▶保険薬局での経口抗がん剤の調剤・服薬指導の現状

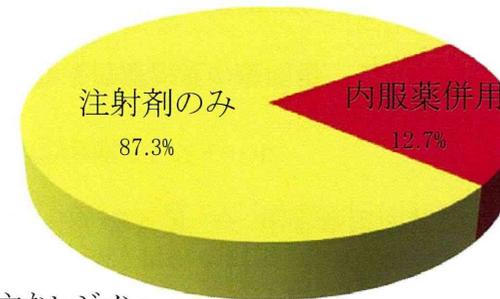
- ・80%の保険薬局では経口抗がん剤の服薬指導が実施されている
- ・17%の保険薬局では経口抗がん剤について説明を行っていないことが多い
- ・68%の保険薬局で経口抗がん剤の調剤・服薬指導時に困った経験がある。

▶問題点

- ・告知の有無が不明
- ・病院でどのように説明されているかがわからない
- ・レジメン内容がわからない
- ・用法・用量が添付文書と異なる

経口抗がん剤併用レジメンの使用状況

県立広島病院 平成23年度(4月～6月)



経口抗がん剤併用の化学療法が10%以上を占めている。

主なレジメン

ゼローダ® 併用
+アバスチン®療法
+シスプラチン療法
+エルプラット®療法

ティーエスワン® 併用
+ジェムザール®療法
+タキソテール®療法
+カルボプラチン療法
+トポテシン®療法
+シスプラチン療法

病院、保険薬局が求める情報

日本薬剤師会が平成17年に行った調査によると

保険薬局が医療機関から得たいと思っている情報

- ①病名(処方意図も含む) 90.4%
- ②病名告知の有無 83.1%
- ③指導時の留意点 68.0%
- ④アレルギー歴・副作用歴 67.7%
- ⑤調剤上の工夫 60.4%

病院薬剤師が保険薬局から得たいと思っている情報

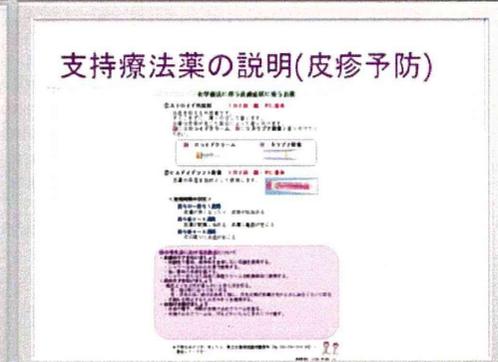
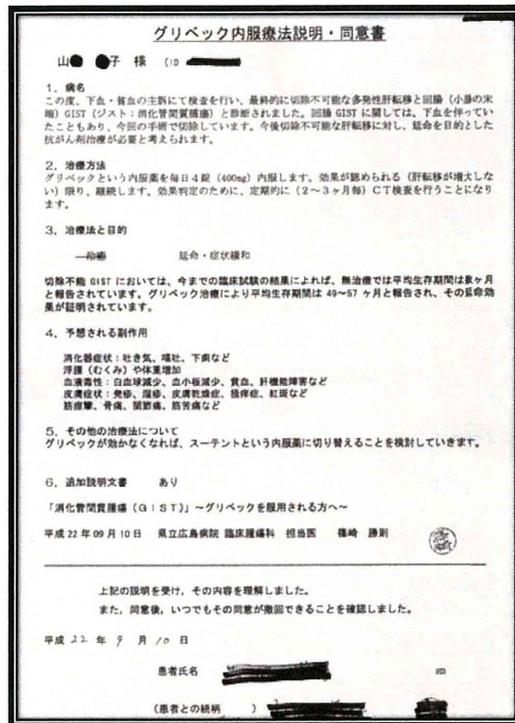
- ①アレルギー歴・副作用歴 76.8%
- ②患者の服薬記録 74.2%
- ③調剤上の工夫 61.1%
- ④指導時の留意点 57.3%
- ⑤一般用医薬品等の使用状況 56.8%

情報共有ツール

病院と保険薬局の情報共有を行うために、「療養手帳」を活用

Contents:

- ①病名、告知の有無、医師が患者へどのように説明しているか分かる文書 → 化学療法同意書のコピー
- ②治療スケジュール
- ③支持療法薬の説明書
- ④病院と保険薬局の情報提供書(施設間連絡書)



施設間連絡書

施設間情報連絡書(案)
保険薬局→県立広島病院

日付	記入者	確認者
コンプライアンス <input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 不良		
TS-1残数 <input type="checkbox"/> 25mg <input type="checkbox"/> 20mg		
服用開始日 月 日 朝・夕		
支持療法残数 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 要処方(薬名:)		
他科併用薬 <input type="checkbox"/> 無し		
<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> ロフルファリン <input type="checkbox"/> ロフェニトイン <input type="checkbox"/> その他		
保険薬局名		

施設間情報連絡書(案)
県立広島病院→保険薬局

日付	記入者	確認者
依頼事項 <input type="checkbox"/> 服薬状況の確認 <input type="checkbox"/> 残薬の確認 <input type="checkbox"/> 併用薬剤の確認		
<input type="checkbox"/> 服薬スケジュールの確認		
連絡事項 <input type="checkbox"/> TS-1用量変更(増量・減量)		

保険薬局での確認事項

- ・コンプライアンス
- ・服用開始日・服用期間
- ・支持療法の残数
- ・他科併用薬

連絡事項に関して自由記載

病院からの依頼事項

- ・服薬状況
- ・残数
- ・服薬スケジュールの確認
- ・他科併用薬

連絡事項

- TS-1の用量変更
- その他、自由記載

今年度の展開

薬剤師による「患者必携」ならびに「地域の医療情報サポートブック」の有用性の評価と薬薬連携の推進

概念

- 患者必携は、
- ・がん患者や家族に寄り添い、
 - ・ともに病気に向かい合い、
 - ・適切な支援を展開するための、
- 観点・情報共有のための情報ハブ

どう活かす? 『患者必携』

患者のアクション、薬剤師ができるアクション

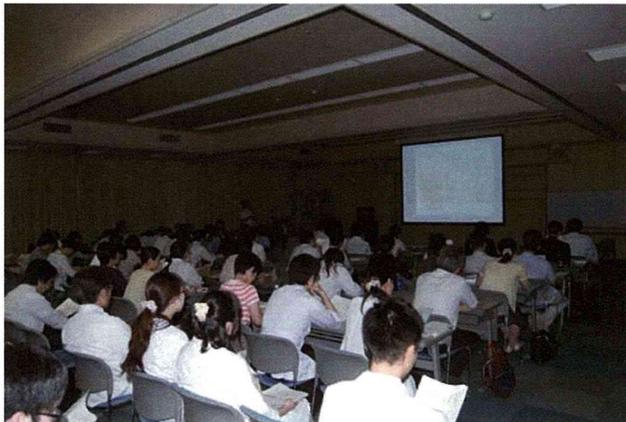


PharmaTribune vol.1 No.9 2009.

テーマ: 外来化学療法と薬薬連携

県立広島病院がん医療従事者研修会

2011.7.12 県立広島病院大講堂



薬剤師 93人(うち院外82)
 医師 22人(うち院外1)
 看護師 10人(すべて院内)
 事務職等 10人(うち院外1)
 計 135人(うち院外84)

薬剤師の皆さまへ

「患者必携」アンケートのお願い

「患者必携」は患者さん・ご家族が がんの診療に必要な情報を収集し、整理し、あるいは わからないことをメモしたり、医療者と対話をするときに活用していただくよう作成しているものです。お渡ししたのち、ご自宅で読んだり、書き留めたりするとき、あるいは、定期的に担当医の診察や、看護師・相談員へ面接や電話相談をされる時や、医療連携や療養介護での情報共有のツールとしてご活用いただくことを目指しています。この「患者必携」は、がんにかかった方の役に立つように全国的に普及できるか、検討段階です。アンケートは、さらに良い「患者必携」にする際の資料にさせていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

アンケート締切：7月29日(金)までに、返信用封筒にて返送してください。

研究実施機関：厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業

「地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究」

(研究代表者 渡邊 清高：国立がん研究センターがん対策情報センター) 〓

研究協力者：篠崎 勝則 (広島県立広島病院 臨床腫瘍科主任部長) 〓

ご返送先 国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供研究部 渡邊清高 〓

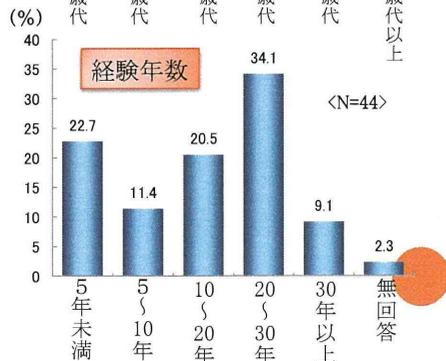
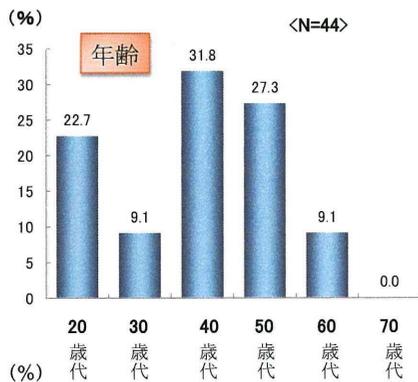
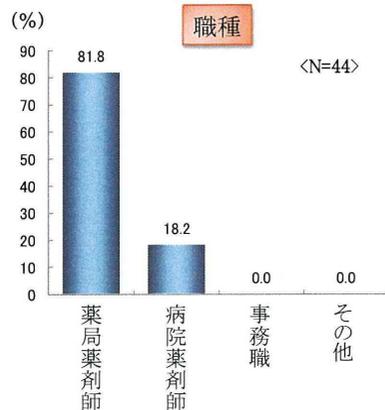
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

お問い合わせ先 広島県立広島病院 臨床腫瘍科主任部長 篠崎 勝則 〓

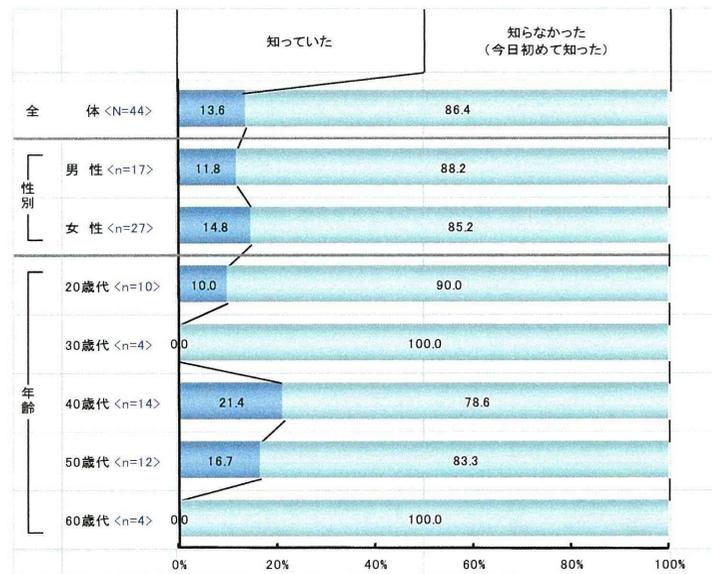
広島市南区宇品神田 1-5-54 TEL : 082-254-1818 (代表) 〓

薬局での患者必携の普及、連携における活用についてお伺いします。主に、普段の業務との関わりを通しての視点からお答えください。

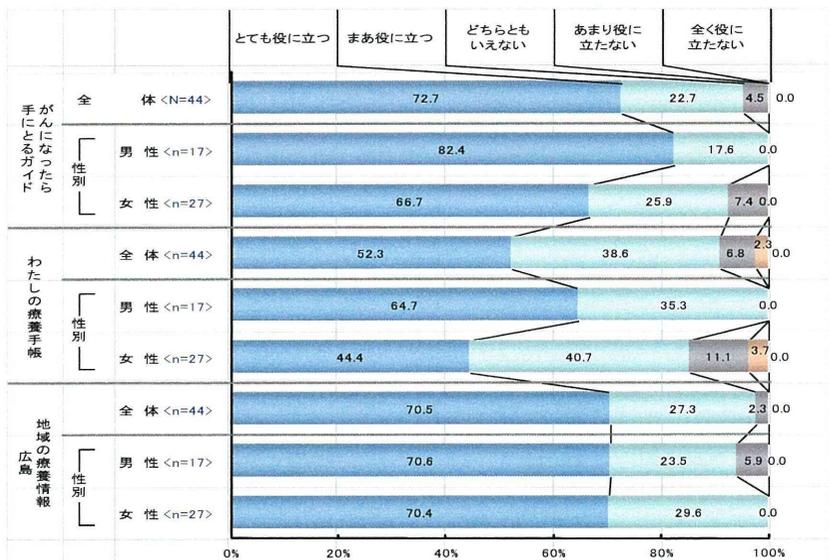
アンケートの背景



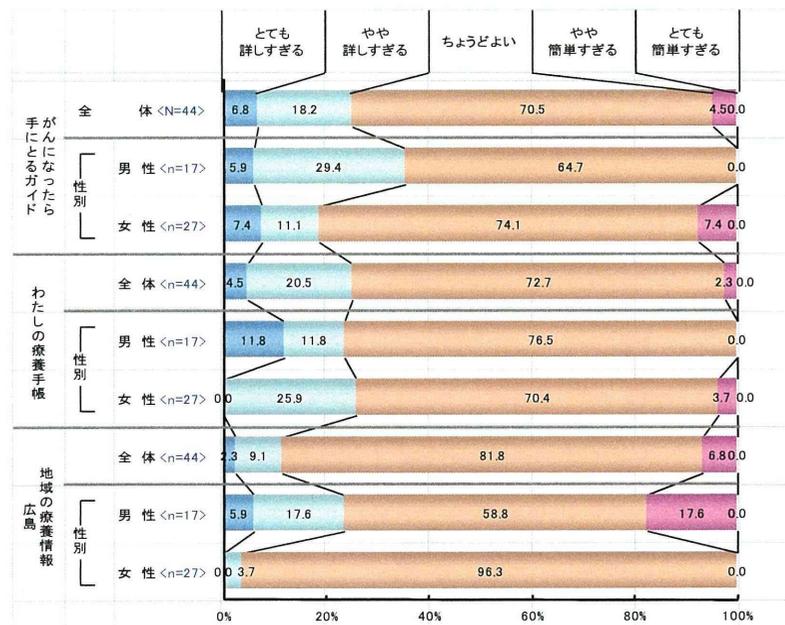
問6. 「患者必携」を知っていたか？



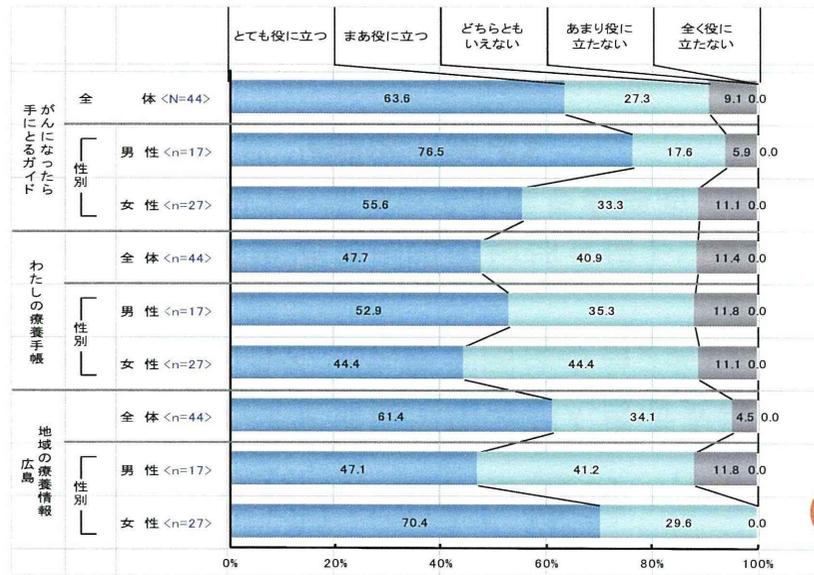
問7. 「患者必携」と「地域の療養情報 広島」は、患者と家族にとって役に立つと思うか



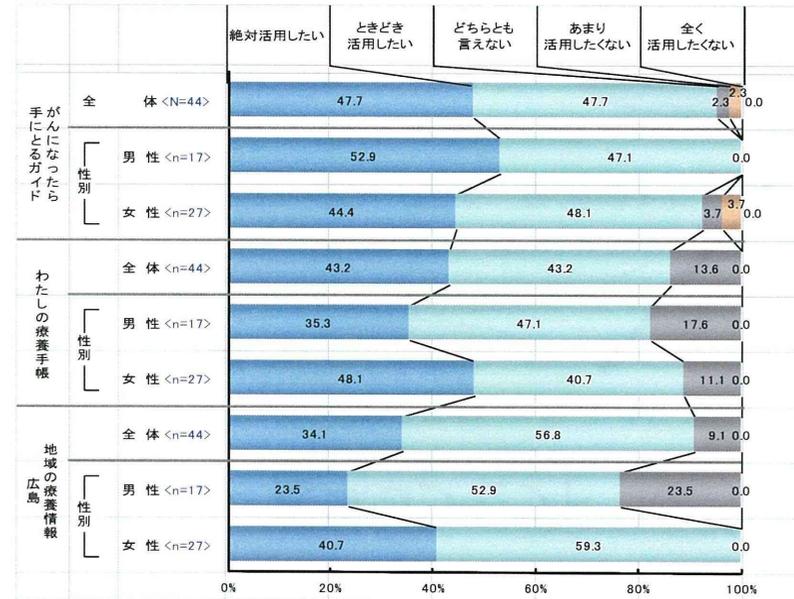
問8. それぞれに書かれている内容は詳しすぎるか



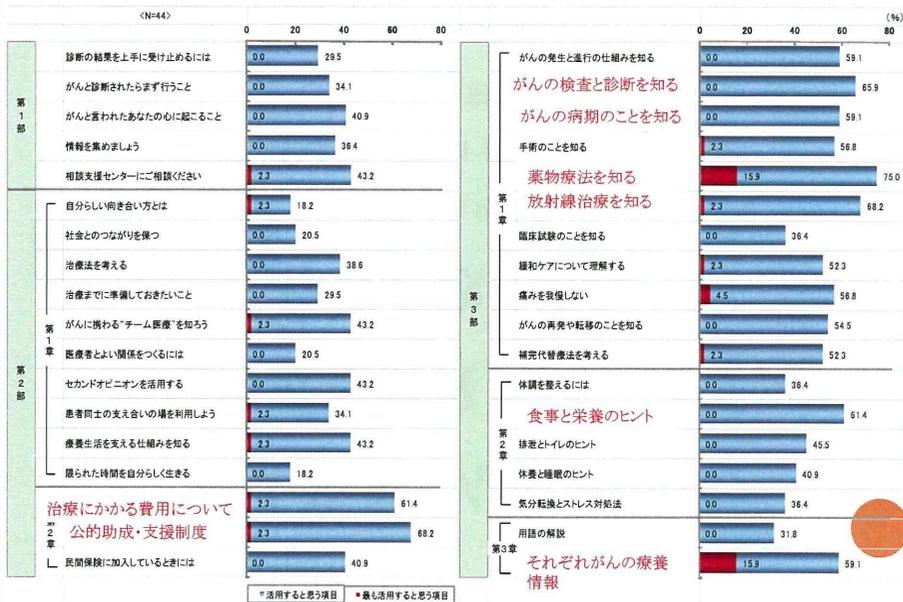
問9. 「患者必携」と「地域の療養情報 広島」は、医療・介護関係者にとって役に立つと思うか



問10. 患者や家族に、患者必携に含まれる情報について、服薬指導・説明のときに活用したいと思うか



問11-3. 現場での業務を通じて、薬剤師として活用すると思うところ (MA)



発見! 広島市 食べて巡って見どころ満載!

稀代の若武者、熱き未来を描く

ご清聴有難うございました。

清盛の広島へ

大河ドラマ「平清盛」広島県推進協議会事務局

がん患者さんのための 「地域の療養情報」サポートブック

がん患者さんのための
地域の療養情報
サポートブック

作成の取り組み

～行政の立場から～

平成23年11月11日

広島県がん対策課



広島県
広島県がん対策推進協議会

きっかけ

がん患者団体等ヒアリング(H19(2007))

「様々な情報を一元的にとりまとめて提供して欲しい」



広島県のがん情報サポートサイト

「広島がんネット」開設(H21(2009))

ホームページ以外の情報提供方策により、高齢者を含めたすべてのがん患者が、正しい情報を等しく入手できる環境整備が必要

作成に向けた検討

○広島県がん対策推進協議会がん患者支援部会で協議(委員10名, うち患者団体委員2名)

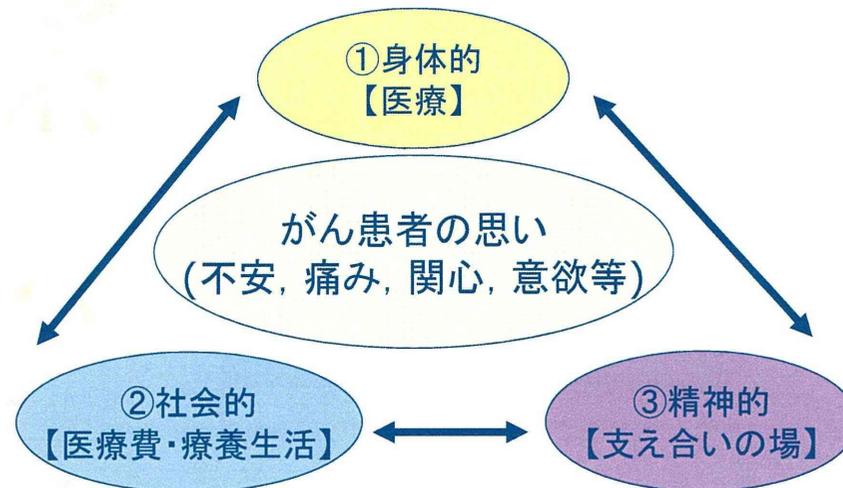
○がん診療連携拠点病院の相談支援センター、がん患者(支援)団体からも意見を聴取

《現場の視点》

◎基本コンセプトのまとめ

◎掲載内容の決定

基本コンセプト



掲載内容

全般

相談支援センターの役割について、より詳しく

医療

・県指定病院 ・がん医療ネットワーク・緩和ケアダイヤル

・セカンドオピニオン等の解説に「囲み」を用いる

医療費・療養生活

・24H対応可能な訪問看護ST, 薬局

・被爆者, 毒ガス障害者に関する制度

・在宅福祉サービス

支え合いの場

・患者団体, フレンドコール ・サロン

・闘病記コーナーのある図書館

がん患者さんのための 「地域の療養情報」サポートブック

●がんの療養生活に役立つ身近な相談窓口など、広島県内の情報を掲載

●県内のがん診療連携拠点病院等で配布

目次

がんに関する相談窓口	1
相談支援センターにご相談ください	1
広島がんネットにも掲載ください	3
医療に関すること	4
がん診療連携拠点病院とは	4
広島県のがん医療ネットワーク	5
がん診療連携拠点病院の役割	7
緩和ケアについて	9
看護・介護サービス	10
在宅療養サービスを受けたい	10
介護サービスを受けたい	11
医療費・療養生活	13
医療費のこと	13
生活費のこと	17
障害のある方への各種制度	18
広島県知事からのメッセージ	19
支え合いの場	20
がん患者団体・患者サロンの紹介	20
サロン	21
情報の入手方法	23
闘病記コーナーのある図書館	23
問い合わせ先	24
県, 市町村	24
広島県の情報	47
がん情報日本一を誇り続けて	47

●主な内容

- ①がんに関する相談窓口の紹介
- ②県内のがん医療施設
- ③在宅療養サービス
- ④医療費助成等の各種制度
- ⑤患者団体や患者サロンの紹介
- ⑥がん闘病記コーナーのある図書館の紹介
- ⑦各種制度の相談窓口

がんに関する相談窓口

相談支援センターにご相談ください

がんになったら
まずここへ！

県内の各がん診療連携拠点病院(P4参照)の「相談支援センター」では、患者さんやご家族からのがんの治療や療養生活全般の質問や相談に対応し、がんに関する様々な情報提供を行っています。相談は無料で、病院で診療を受けていない方でもご利用いただけます。

◆相談支援センター (P23, 3参照)

区分	相談支援センター名	所在地	問い合わせ先	対応曜日・時間
国指定	広島大学病院 がん医療相談室	広島市 南区	直:082-257-1525	9:00~17:00
	県立広島病院 総合相談・がん相談室	広島市 南区	直:082-256-3561	9:00~17:00
	広島市立広島市民病院 がん診療相談室	広島市 中区	直:082-221-1351	8:30~17:00
	広島赤十字・厚場病院 相談支援センター	広島市 中区	代:082-241-3477 代:082-241-3111 (P93208)	9:00~16:00
	広島市立安佐市民病院 がん相談支援室	広島市 安佐北区	代:082-815-5211 (P92289)	8:30~15:15
	東広島市立市民病院 がん相談支援センター	廿日市市	直:0829-36-3270	8:30~17:00
	医療費センター がん相談支援センター	呉市	直:0823-24-6358	9:00~17:00
	東広島医療センター 医療相談支援センター	東広島市	直:082-493-6487	9:00~15:00
	尾道総合病院 医療福祉支援センター	尾道市	代:0848-22-8111	8:30~17:00
	福山市民病院 がん相談支援センター	福山市	代:084-941-5151 (P93115)	9:00~16:00
県指定	尾道市立市民病院 相談センター	尾道市	代:0824-65-0239 代:0824-65-0101 (P2186)	9:00~17:00
	市立三次中央病院 がん相談支援センター	三次市	直:0824-65-0239 代:0824-65-0101 (P2186)	9:00~17:00
	呉共済病院 がん相談支援室	呉市	代:0823-22-2111	10:00~16:00
	尾道市立市民病院 相談センター	尾道市	代:0848-47-1155 (P437)	8:30~17:15
	福山医療センター がん相談支援センター	福山市	代:084-922-0001	9:00~17:00
中国中央病院 地域連携室・がん相談窓口	福山市	代:084-970-2121	9:00~16:30	

病院によっては、受付時間が異なり、予約が必要な場合もありますので、事前にご確認ください。

がんに関する相談窓口

こんなときに
相談支援センターを活用してください

- ✓がんについて詳しく知りたいとき
- ✓がんの治療方法について確認したいとき
- ✓療養生活のことについて聞いてみたいとき
- ✓誰かに心の悩みを聞いてほしいとき
- ✓生活や経済的などで心配があるとき
- ✓家族のことも相談してみたいとき

相談支援センターでは、その外
にがんに関する幅広い相談を受け
付けています。(P10~P22参照)

患者団体による相談窓口

がん患者さんやご家族が抱える不安や悩みなどの相談に対して、がん経験者等が情報提供や各種相談に対応しています。

がんの治療を受ける中で、不安になったり、心配になったり、一人ではどうしたらいいかわからなくなったり、様々な悩みが湧いてくる
ことがあります。そんな時に、フレンドコールをご利用ください。がんの
体験者や家族たちが、同じ立場でお話をお聞きします。
ひとりではまず一語に話してみませんか？

◆がん患者フレンドコール

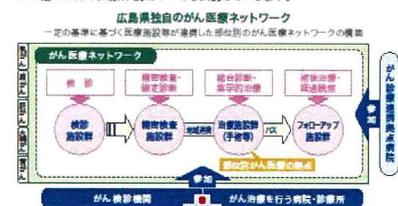
開設日時	毎週水・木曜日 11:00~16:00
電話番号	082-247-0080
実施主体	NPO法人広島がんサポート



医療に関すること

広島県のがん医療ネットワーク

広島県では、がん検診、精密診断、治療、緩和ケアの各段階において一定の基準を満たす専門機関が相互に連携しながら切れ目のない医療を提供する「広島県がん医療ネットワーク」の構築を進めています。現在、「乳がん医療ネットワーク」及び「肺がん医療ネットワーク」を構築しています。今後は、他の5大がん(肝・大腸・胃)にもこの連携体制を広げるとともに、その他のがんの医療体制についても検討していきます。



患者さんにとっては

がん医療ネットワークに参加している医療機関であれば、どこでも同じ水準の検査や治療が効率的に受けられる仕組みづくりを進めています。これによって、県内のどの地域でも安心して質の高い医療を受けることができると期待されています。

◆乳がん医療ネットワーク



医療に関すること

◆乳がん医療ネットワーク



◆がん医療と地域連携バス

がん医療では、手術を行った医療機関が、がん患者さん一人ひとりに対して、術後の「診療計画書(地域連携パス)」を作成し、地域のかかりつけ医(フォローアップ施設)と今後の治療に必要な検査や診療情報を共有、連携して切れ目のない治療を行う仕組みに変わってきています。

◆わたしの手帳

乳がん患者さんと医療者が、診断から術後にいたるまでの経過等を記録し、情報を共有することで、安心して治療を受けるために役立てていただくためのものです。この手帳は、県内の乳がん医療ネットワーク参加施設において術後の患者さんに無料でお渡ししています。



セカンドオピニオンを受けたい

セカンドオピニオンとは、患者さんが自身のがんへの理解を深め、適切な治療を選択するため、主治医以外の医師に意見を聞き、情報を収集することです。

がん診療連携拠点病院のセカンドオピニオン窓口

Table with 4 columns: 区分, セカンドオピニオン窓口, 問い合わせ先, 対応時間

- ★平成23年度に、セカンドオピニオン外来を開設予定
※完全予約制のため、事前に連絡してください。
※取次費がかかります(医師受診時)。
※原則として、現在治療している病院の紹介状や診断・治療に係る資料が必要です。

がん診療連携拠点病院以外の医療機関でもセカンドオピニオンを実施しています。詳しくは広島がんネット(P3)を参照してください。

主治医から

ご説明した診療方針を十分理解し納得していただくためにセカンドオピニオンという方法があります。申し出があれば、主治医は紹介状などを用意しますので、速断せずにお申し出ください。



セカンドオピニオンを希望する医師から

適切な意見を述べるためには、これまでの経過を知る必要があります。主治医からの紹介状と検査結果をお持ちください。

科医室から

セカンドオピニオンは納得して医療を受けるためにも患者として当然の権利です。しかし、その前に少し考えてみましょう。「主治医からの説明は十分理解できていますか?」しっかりと説明を受けた上で、セカンドオピニオンを求めましょう!

セカンドオピニオンを受けるには、主治医からの紹介状と検査結果をお持ちください。



セカンドオピニオンに限らず、がんとは診断された後など、詳しい病状や治療の内容などについて、患者側が疑問や不安を抱くことは多くあります。医師と患者の間にコミュニケーションがとれ、お互いに理解し合えることが大切です。

がん患者の方(被爆者健康手帳をお持ちの方)でがん等になった方へ

被爆者の方ががん等になった場合、その原因が原子爆弾の被害作用によるものであり、現に治療を要する状態にあるという厚生労働大臣の認定(前記)が放射線以外の被害作用によるものである場合には、その方の被害能力が放射線の影響を受けているという(認定)を受けることによって、医療費が全額国庫負担になります。

Table with 2 columns: 医療特別手当て, 特別手当て

がん患者の方(がん等)になった方へ

厚生労働省所管(労働者補償課、勤労者健康課、戦後処理等の癌ガンを被害者で、医師手帳の交付を受けた方は、指定医療機関で医師手帳を提示することにより、癌ガンを起因する疾病の医療等について、医療保険等の自己負担分を減額し、認定された方については、特別手当が支給されます。

Table with 2 columns: 特別手当て, 問い合わせ先

※国家公務員共済組合連合会所管の癌ガンを被害者の方は、同機関で同様の制度がありますので、ご確認ください。(国家公務員共済組合連合会旧年金課 03-3265-8141)

住民参加型の在宅福祉サービスを受けたい

市内の複数の市町の社会福祉協議会では、「オール広島ささえあいネットワーク」の名称で、暮らしの中でのちょっとした困りごとを住民同士がお互いささげあいで支えあつた、住民による有償の日常的な生活支援を行っています。

ごみの分別が分りにくい、物を捨ててしまつて買い物に行けない、布団が重たくて一人ではずせない

実施市町

Table with 2 columns: 実施市町, 名称

※詳しくは各社会福祉協議会にお問い合わせください。

問い合わせ先 市町社会福祉協議会(P27~P28参照)



支え合いの場

支え合いの場があります

市内には次のようながん患者団体(患者支援団体)や、患者サロンがあります。自分に合った支え合いの場を利用して下さい。

市内のがん患者団体・患者支援団体(広島がんネット掲載団体)(H23.3現在)

Table with 4 columns: 団体名, 所在地, 連絡先, 主な活動内容・対象疾患

※各団体の詳しい活動内容、加入方法等については、直接各団体にお問い合わせください。
※各団体の活動に参加する場合は、必ず事前に連絡し、入会条件など双方了解の上、ご自身の責任に基づいて参加してください。

支え合いの場

がん診療連携拠点病院が開設するサロン

Table with 4 columns: 区分, 病院名, 名称, 開催日時, 連絡先

※広島市立安佐市民病院は平成23年度開設予定。

支え合いの場

がん診療連携拠点病院が設けているサロンは、がん患者さんやご家族などが同じ立場での悩みや体験等語り合うことができます。
病院によって開催状況やプログラムは異なりますが、病状や治療方法、療養生活などについての学習会を行っています。当事者同士が自由に語り合える機会を設けています。

また、医師や看護師などの医療スタッフも参加していますので、心配事や悩みについて、診療室とは違った気取らない雰囲気でも相談したいこともできます。
参加された方々の中には、医師が癒された病状に立ち向かう勇気が湧いてくる、有罪、開業日を楽しみにしている方もおられます。
がんになつても一人で悩まず、辛い気持ちを共有し合ったり、前向きに学び合えるサロンに一度参加してみませんか。
詳しい内容や参加方法は、各病院までお電話にてお問い合わせください。

患者団体等が開設するサロン

Table with 4 columns: 団体名, 所在地, 名称, 連絡先

活用について

- 広島県内のがん診療連携拠点病院等で、
無料配布
- 「広島がんネット」への掲載



今後の課題

評価・検証について

⇒ 実際の利用者の方々の御意見を元に、
評価・検証し、より良いものにして
いく必要があるのではないか

継続した情報提供のあり方について

⇒ 情報は日々変わっていくが、県として
どこまで・どのような形で対応すること
ができるのか

がん対策日本一の実現をめざして

県内のさまざまな方々との協働により、がん対策日本一を
めざし、県民のみなさまの安心な暮らしを実現



御清聴ありがとうございました

地域で作る沖縄県版「地域の療養情報」 『おきなわ がんサポート ハンドブック』 (ちむぐるる おきなわ)

琉球大学医学部附属病院がんセンター
沖縄県がん診療連携協議会
増田 昌人

患者必携

- 「**がん対策推進基本計画**(2007年6月策定)」にて、その作成等が定められたのがきっかけで作成された。
- がん患者さんにとって必要な**がんに関する情報**を取りまとめた冊子で、**がんと診断されたすべての方**に、患者必携に含まれる情報を届けることで、患者さんがより良い療養生活を送ることを目指している。
- 以下の**三部作**である

自分らしい向き合い方を考えていくために読む『**がんになったら手にとるガイド**』(1,260円)(A5判サイズ)



2011/11/11

聞いたり調べたりして理解したことを書きとめて整理する『**私の療養手帳**』(ガイドに付属)(A5判サイズ)



患者必携研経会

相談窓口などの情報をとりまとめた『**地域の療養情報**』(無料)(A5判サイズ)



2

【背景 1】

- 沖縄県では都道府県がん診療連携拠点病院として琉球大学医学部附属病院(以下琉球大学病院)、地域がん診療連携拠点病院として沖縄県立中部病院・那覇市立病院、そして**沖縄県独自のがん診療連携支援病院**として北部地区医師会病院・沖縄県立八重山病院・沖縄県立宮古病院が指定されている。
- 2007年9月に**沖縄県がん診療連携協議会**を設置し、専門部会として**相談支援部会**を組織した。

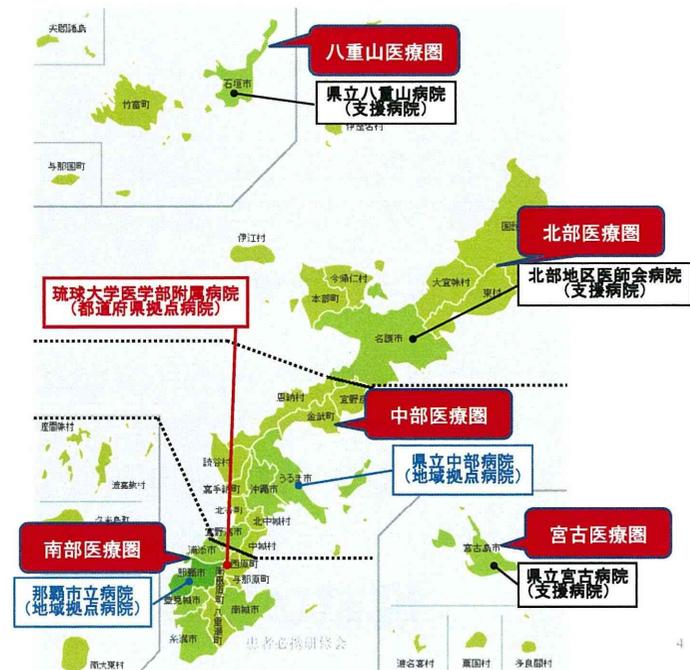


2011/11/11

患者必携研経会

3

沖縄県のがん診療連携拠点病院 および支援病院



2011/11/11

患者必携研経会

4

沖縄県がん診療連携協議会委員

県拠点病院 (9名)	地域拠点病院・ 支援病院(12名)	沖縄県および 各種団体(6名)	患者委員および 有識者委員(6名)
病院長・副病院長	地域拠点病院長	県政策参与 (副知事相当)	患者関係委員3名
看護部長	同副院長・部長 から2名	県福祉保健部長	(1)患者
薬剤部長	支援病院長	医師会長	(2)患者家族
医療福祉支援 センター長	同副院長・部長 から1名	歯科医師会長	(3)患者遺族
病理部長		薬剤師会長	有識者 若干名
歯科口腔外科科長		看護協会長	(1)天野委員
事務部長			(2)埴岡委員
がんセンター長			(3)山城委員

2011/11/11

患者委員協議会

5

沖縄県がん診療連携協議会ホームページ



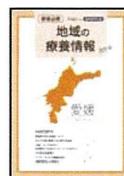
2011/11/11

患者委員協議会

6

【背景 2】

- 厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究」班が、「地域の療養情報」の企画・製作・臨床試験を行った
- 治療や療養生活に役立つ身近な相談窓口などの情報をとりまとめた冊子である。
- 研究班として茨城、栃木、静岡、愛媛県版を先行して試作し、次に高知と沖縄県版を試作した。



2011/11/11

患者委員協議会

7

試作版作成スタッフ

- 1 沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会
- 2 琉球大学医学部附属病院がんセンター

* 情報提供及び協力

- 1 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供研究部
- 2 エルゼビア・ジャパン株式会社
- 3 沖縄県がん診療連携協議会及び他の6つの専門部会
- 4 沖縄がん患者ゆんたく会(患者会)
- 5 沖縄県福祉保健部

2011/11/11

患者委員協議会

8

相談支援部会委員(試作版作成時)

	所属	備考
1	沖縄がん患者会連合会会長	患者
2	㈱プロダクツ・プランニング社長	患者の遺族
3	NPO法人マインドケアおきなわ理事	臨床心理士
4	沖縄県中部福祉保健所健康推進班長	沖縄県(医師)
5	沖縄県福祉保健部医務課主任	沖縄県(事務官)
6	北部地区医師会病院MSW	地域拠点病院
7	沖縄県立中部病院MSW	地域拠点病院
8	那覇市立病院MSW	地域拠点病院
9	琉球大学病院相談支援センターMSW	県拠点病院
10	琉球大学病院がんセンターMSW	県拠点病院
11	琉球大学病院がんセンター長	県拠点病院
12	(琉球大学病院がんセンター事務)	県拠点病院(陪席)

2011/11/11

患者会協同体

9

試作版作成経過

09年6月	沖縄県がん診療連携協議会委員から渡邊先生を紹介され、「患者必携」事業を知る⇒渡邊先生、琉球大学病院がんセンターご訪問
7月	相談支援部会にて、増田委員が「患者必携」事業を説明 『地域の療養情報(沖縄県版)』作成を部会事業に加えることが承認
7月	先行している県の「地域の療養情報」を基に内容について審議
7月	実際の作成に向けて始動⇒コンテンツ収集開始、沖縄県にも協力依頼
8月	沖縄県と各委員から収集した情報が提示され、コンテンツの整理を行う
9月	緩和ケア部会と普及啓発部会でも検討、新たなコンテンツを提案
10月	沖縄県版に追加する項目を最終的に決定
11月	たたき台が完成、内容の訂正・見直しを行う
12月	沖縄がん患者ゆんたく会(患者会)に内容の訂正・見直しを依頼
10年1月	『地域の療養情報(沖縄県版)』試作版完成
5月	渡邊班で発表

2011/11/11

患者会協同体

10

患者必携 地域の療養情報 試作版



CONTENTS

沖縄県のがん医療について	3
沖縄県のがん診療連携拠点病院を存続させるか?	6
医療費のことが心配	11
生活費や経済的なことが心配	18
自宅で療養生活のことが心配	26
緩和ケアについて	45

試作版に追加した内容

- 1 放射線治療実施施設
- 2 セカンドオピニオン実施施設リスト
- 3 市役所・町村役場担当連絡先
- 4 沖縄県福祉保健所
- 5 全国健康保険(協会けんぽ)
- 6 社会保険事務所
- 7 MSW配置病院
- 8 在宅療養診療所
- 9 沖縄県内の地域包括支援センター
- 10 ファミリー・サポート・センター
- 11 ファミリーハウス

2011/11/11

患者会協同体

11

「地域の療養情報」沖縄県版(第1版) 「おきなわ がんサポート ハンドブック」の作成

【目的】

- ・「地域の療養情報」沖縄県版を作成・配布することによって、がん患者とその家族に、がんに関する身近な情報を提供する。
- ・同時に『がんになったら手にとるガイド』と『私の療養手帳』を広報し、購入を奨励することにより、がんに関する総合的な情報提供を行う。

【方法】

- ・沖縄県がん診療連携協議会・相談支援部会が、先行して試作された4県の「地域の療養情報」を詳細に分析し、沖縄県に必要なコンテンツを選定する。
- ・沖縄県福祉保健部と琉球大学病院がんセンターと協力して、「地域の療養情報」沖縄県版を発行する。

2011/11/11

患者会協同体

12

第1版作成スタッフ

- 1 沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会
- 2 沖縄県福祉保健部
- 3 琉球大学医学部附属病院がんセンター

* 情報提供及び協力

- 1 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供研究部
- 2 エルゼビア・ジャパン株式会社
- 3 沖縄県がん診療連携協議会及び他の6つの専門部会
- 4 沖縄県がん患者会連合会
- 5 沖縄県立首里高校染織デザイン科
- 6 瑞泉同窓会(旧沖縄県立首里高等女学校・旧沖縄県立女子工芸学校同窓会)

* 赤字は新規メンバー

2011/11/11

患者会協賛誌

13

相談支援部会委員

	所属	備考
1	沖縄がん患者会連合会会長	患者
2	㈱プロダクツ・プランニング社長	患者の遺族
3	NPO法人マインドケアおきなわ理事	臨床心理士
4	沖縄県中部福祉保健所健康推進班長・医師	沖縄県
5	沖縄県福祉保健部医務課主査	沖縄県
6	中頭病院医療相談室・MSW	一般病院
7	ハートライフ病院地域医療連携室・MSW	一般病院
8	豊見城中央病院相談室主任	一般病院
9	国立沖縄病院地域医療連携室経営企画室長	一般病院
10	沖縄県立八重山病院地域連携室師長・看護師	支援病院
11	沖縄県立宮古病院地域連携室長・MSW	支援病院
12	沖縄県立中部病院病床管理師長・看護師	地域拠点病院
13	那覇市立病院MSW	地域拠点病院
14	琉球大学病院がんセンター・MSW	県拠点病院
15	琉球大学病院がんセンター長・医師	県拠点病院
16	(琉球大学病院がんセンター事務)	県拠点病院(陪席)

* 赤字は新規メンバー

2011/11/11

患者会協賛誌

14

第1版作成経過

- 10年2月 地域の療養情報(沖縄版)試作版完成
- 3月 試作版の評価を行う(相談支援部会, 患者会)
- 4月 平成22年度沖縄県福祉保健部予算「がん医療連携体制推進事業」484万円
- 5月 渡邊班にて地域の療養情報についての発表
改訂版作成にあたって掲載情報の精査が行われる
- 6月 沖縄がん患者ゆんたく会(患者会)の幹部に、内容の訂正・見直しを依頼
- 7月 改訂版製作のための情報収集を行う(1回目)
(情報提供: 相談支援部会, 沖縄県がん患者会連合会, 沖縄県)
- 10月 各担当者より収集した情報の見直し, 精査を行う(2回目)
- 11月 見直し3回目(追加: 沖縄県がん診療連携支援病院について掲載)
- 12月 表紙デザイン, 見出し, レイアウトについて検討する
紅型作品を提供(沖縄県首里高等学校染色デザイン科3年生)
患者会へ意見収集(沖縄県がん患者会連合会)
内容・タイトル・方言について高齢者から情報収集(瑞泉同窓会)
- 11年1月 編集作業, 内容の最終確認
- 3月 第1版完成(2万部)
- 4月 関係施設に配布
- 5月 拠点病院にて患者や患者家族に配布開始

2011/11/11

患者会協賛誌

15

第1版へ追加した情報

- | | |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 1 沖縄県がん診療連携支援病院 | 11 福祉用購入費や住宅改修費の支給 |
| 2 高額療養費貸付制度 | 12 訪問看護ステーション一覧 |
| 3 高額療養費受領委任払い制度 | 13 介護タクシー |
| 4 標準負担額減額認定制度 | 14 沖縄国際民間救急サービス |
| 5 一部負担金の減免制度 | 15 緩和ケアについて(説明、緩和ケア外来一覧、こころの緩和ケア) |
| 6 生活保護 | 16 がんと告知されたときの家族へのアドバイス |
| 7 障害年金(基礎年金・障害厚生年金・障害共済年金) | 17 患者会について |
| 8 障害手当金(厚生年金)
障害一時金(共済年金) | 18 日本対がん協会の電話相談 |
| 9 高額介護・高額介護予防サービス費 | 19 患者必携サポートセンター |
| 10 高額医療・高額介護合算制度 | |

2011/11/11

患者会協賛誌

16

「ハンドブック」の常備先

3,000冊	琉球大学病院	県拠点病院
1,500冊	那覇市立病院 県立中部病院	地域拠点病院
500冊	北部地区医師会病院 県立宮古病院 県立八重山病院	支援病院
250冊	専門的がん診療機関 (18施設)	県保健医療計画 での選定施設
50冊	標準的がん診療機関 (83施設) 福祉保健所(6施設)	県保健医療計画 での選定施設
5冊	市町村(41自治体)	
1冊	診療所等(390) 薬局(145) 老健施設(44) 地域包括支援センター(41) 患者会(23) ファミリーサポートセンター(14) 県及び地区医師会(8) 年金事務所(6) 歯科医師会・看護協会	

* 残り2,600冊余は沖縄県庁保管

2011/11/11

患者必読相談会

21

「ハンドブック」の配布場所

<がん患者さんとそのご家族>

- 1 通院先の医療機関
がん診療連携拠点病院
・琉大病院
・那覇市立病院
・県立中部病院
の相談支援センター
- 2 琉大病院がんセンター

<一般の方>

- 1 沖縄県福祉保健部
- 2 福祉保健所
がん診療連携拠点病院
・琉大病院
・那覇市立病院
・県立中部病院
の相談支援センター
- 3 琉大病院がんセンター

「ハンドブック」の琉球大学病院での配布方法

琉大病院からのお知らせ

がんが診断されて間もない患者さんやそのご家族の思いに寄り添い、支えることの意味となる情報誌「がんになったら手にとるガイド」と「わたしの闘病手帳」が作成されました。これらを活用することで、以前よりも「理解でき、わかりやすく、役に立つ情報」を得ることが可能です。また、これらは一冊兼送ってセットで1,200円で販売されています。(同時の売店でも購入することができます)

詳細については、資料されている「患者さんのしおり」をご覧ください。なお、沖縄県は全国に先がけて地域の癌情報「おきなわがんサポートハンドブック」を作成しましたので、合わせてご利用ください。

資料された冊子についてのご質問は、下記の連絡先へお問い合わせください。

資料名	発行時期	電話
患者さんのしおり	富山がん研習センター 平日 9時～17時(土曜休)	0570-427-3410
わたしの闘病手帳	富山がん研習センター 平日 10時～17時(土曜休)	
おきなわがんサポートハンドブック	富山がん研習センター 平日 9時～17時(土曜休)	0570-427-3410
おきなわがんサポートハンドブック	富山がん研習センター 平日 10時～17時(土曜休)	

*「がん」についての冊子や冊子・冊子とは、医療福祉支援センターにて取扱いください。

資料名	発行時期	電話
琉球大学医学部附属病院 医療福祉支援センター	平日 9時～17時(土曜休) 平日 10時～17時(土曜休)	098-896-1356

2011/11/11

患者必読相談会

22

1. 外来・病棟で、**担当医が、がん患者または家族に、下記の2冊が入った封筒を手渡す**
2. 問合せ先:「しおり」は国がん
ハンドブックは琉大がんセンター
相談は琉大相談支援センター
3. 5月16日から配布開始した

